

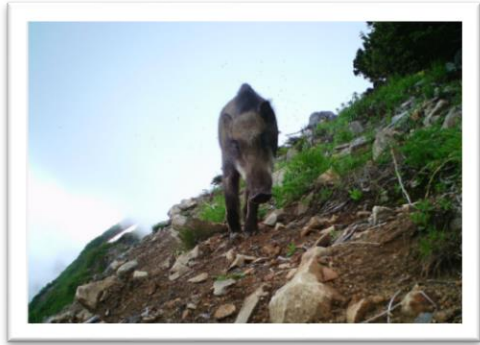
地球温暖化防止活動推進センター通信



●新春特集● 2019年は亥年  
**里山・森林と地球温暖化〈前編〉**

あけましておめでとうございます。  
 本年も長野県センター・長野市センターを  
 よろしく申し上げます。

今年の干支は「亥」です。先月上旬、長野県環境保全研究所飯  
 綱庁舎をお訪ねし、イノシシを切り口に、里山・森林と温暖  
 化について、堀田昌伸さん・尾関雅章さん・高野宏平さん  
 にお話を伺いました。今号と次号の2回連載でお届けします。



後立山連峰岩小屋沢岳周辺の高山帯にて  
 2015/7/2 14:48



👉 高山帯にイノシシ出没！(写真右上) 👈

長野県環境保全研究所では、北アルプス後立山  
 連峰の爺ヶ岳周辺で、赤外線センサーカメラを利用した動物の調査を2007年から行い、イノシシ  
 は2015年に爺ヶ岳・岩小屋沢岳で初めて撮影さ  
 れて以降、毎年写っています。2016年にはイノ  
 シシが高山植物を掘り返した跡も確認しました。  
 昨年5月には白馬岳でも目撃されました。

各地に残る猪垣\*や狩猟記録などから、イノシ  
 シは昔東北地方まで生息していたことがわかっ  
 ています。明治時代から昭和初頭にかけて乱獲  
 され、激減していたのが、今また北へと分布を拡  
 大しているなかで、高山帯へも出没する個体が  
 いると考えられます。

\*イノシシの農作物食害を防ぐために耕地の周り  
 を囲んだ木柵・土塁・石垣など。

👉 地球温暖化で竹林拡大の恐れ 👈

イノシシはタケノコが好物で、竹林を隠れ場  
 所・餌場にします。長野県環境保全研究所と東北  
 大学、気象庁気象研究所などの研究グループは、  
 地球温暖化に伴い、竹林の生育適地が高緯度・高  
 標高に拡大し、生態系を脅かす危険性が高まると  
 という予測を2017年に発表しました。研究では、  
 東日本（長野県から青森県まで）の145ヶ所の  
 アメダスの周りを調べ、昔（1975～1980年）の  
 空中写真と比較して、最近40年程の期間で新た

に定着した竹林を見つけました。145地点のアメ  
 ダスデータから、年平均気温が8～11℃を超え  
 ると、竹林をつくるモウソウチク・マダケが存在  
 できる可能性が高くなることを確認、この結果に  
 将来の気候の予測値を当てはめて、「竹林の生育に  
 適した環境だと予測された地域」の分布図を作  
 りました。👉長野県の部分を下に掲載。

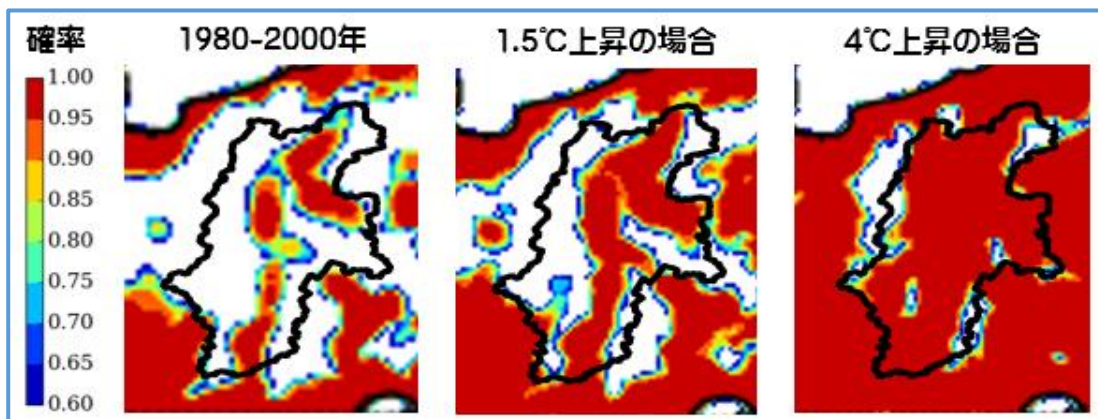
パリ協定の努力目標である、今世紀末までに  
 「産業革命前より1.5℃上昇した場合」に比べ、  
 温暖化対策をとらずに「4℃上昇した場合」では  
 竹林の生育の確率が大幅に上がり、ほぼ県内全  
 域が竹林の生育に適した環境（図中の着色部分）  
 となってしまいます。

しかし、日本では種子によって新たに竹林が  
 できたとの報告はありません。タケノコを食べ  
 ることなどを目的に、人が地下茎ごと移植する  
 ことで新しい竹林はできているのです。

気温上昇をできるだけ抑えてタケが生育  
 できる環境を広げないようにし（＝緩和策）、  
 むやみにタケを植えないようにする（＝適  
 応策）、両方を進めていくことが必要だと思  
 います。

MEMO 🌿 竹の種類 🌿

10mを超すようなモウソウチク（孟宗竹）・マダケ  
 （真竹）は外来種。メダケ（女竹）・ヤダケ（矢竹）・ネ  
 マガリタケ（根曲竹）・スズタケ（篠竹）など“ササ（笹）”  
 と呼ばれる小さいタケが日本の在来種。



★写真・分布図  
 とも長野県環  
 境保全研究  
 所にご提供  
 いただきました。



👉次号に  
 続きます。